

第31回ズーム三水会記録

日時：2024年1月17日（水）16時15分～18時15分

- ① テーマ：「「スペイン最初の内戦 カルリスタ戦争 1834-1876」」
- ② 発表者：石塚秀雄氏
- ③ 司会：今尾和美氏 当日招集者のトラブルで開始が15分遅れたため暫定的に野口が司会を代役した。申し訳ありませんでした。編集者野口幹夫

参加者 11名（敬称略） 團野廣一 野口幹夫 富沢賢治 小関 栄 村沢澄子 斎藤嘉璋
波治裕美 石塚秀雄 今尾和美 丸山茂樹 中村範子

報告内容：

概要

1930年代のスペイン内戦はよく知られているが、1800年代に三回にわたって行われたカルリスタ戦争はあまり知られていないし、興味をもつものも少ない。しかし、世界史的に見るとスペイン名誉革命と明治維新は同じ1868年である。すなわち19世紀は資本主義体制、帝国主義体制の形成にむけて政治的にも技術的にも大変動の時代であった。当時一連の「スペイン革命論」を書いたK.マルクスは同時期に発生したクリミア戦争やロシアトルコ戦争、イギリスのインド進出などのヨーロッパの関心に引きずられて、スペインで何が問題になっているのかを当初理解できなかった。反動派の反乱とみなした。カルリスタ戦争はスペインブルボン王家の相続という外観をとっているが、「自由主義」（進歩派とよばれる）国民国家構

築の路線と地域主義を重視する「封建派」(反動派と呼ばれた)との戦いで、もちろん資本主義路線が勝利したのである。

しかし、現在、コミュニティ、コモン、SDGsなどの議論がでているように、理論的な対抗関係はすでに19世紀のスペインでもその事例をみることができるのである。

明治維新も天皇制復活という古代の衣装をまといながら近代化を目指したという逆説に満ちた過程であったことは、スペインの経験とほぼ同じである。

質疑討論： 参会者から熱心な質問討議が30分ほどあったが詳細は下記の録画をご覧ください

当日の録画のユーチューブ：<https://youtu.be/IV1J1ieG0CA>

添付資料

別紙に添付 PP「カルリスタ戦争 スペインの明治維新 国家と社会の闘争」



カルリスタ戦争

2024/1/17

スペインの「明治維新」
国家と社会の闘争

石塚秀雄

イサベル2世の称号

- Doña Isabel II por la gracia de Dio, Reina de Castilla de Leon, de Aragon, de las Dos Sicilias, de Jerusalem, de Navarra, de Granada de Toledo, de Vallencia, de Galicia, de Mallorca, de Sevilla, de Cerdena, de las Indias Orientales, de Mar Oceano, Archiduquesa de Austria, Duquesa de Borgña, de Brabante y de Milan, Condesas de Aspurg, Flandes Tirol y Barcelona, Señora de Vizcaya y de Molina Vc, por la gracia de Dios y la Constitución de Monarquia, Reina de las Españas.

スペイン、日本の500年年表

透かしを削除する

1492	カトリック両王	1543	ポルトガル人、種子島に鉄砲
1517	カルロス5世(ハプスブルグ帝国)	1551	ザビエル来日。風林火山
1566	フェリペ2世、スペイン最盛期	1700	元禄忠臣蔵、オランダ交易
1700	カルロス2世、ハプスブルグ系終焉	1789	クナシリ、アイヌ反乱、ロシア進出
1703-13	スペイン継承戦争		
1714	フェリペ5世(ボルボン系開始)		
1789	フランス革命		

スペイン、日本の500年年表

透かしを削除する

1803	ナポレオン戦争
1833	①カルリスタ戦争
1847	②カルリスタ戦争、 ヨーロッパ革命(フランス、
1861	アメリカ南北戦争
1868	スペイン名誉革命
1869	スエズ運河
1871	イタリア統一
1874	③戦争カルリスタ
1898	失われた植民地

1808	イギリス船来る
1828	シーボルト事件
1845	フランス船、アメリカ船来る
1854	ペリー浦賀へ。
1868	明治維新
1871	岩倉ら欧米視察
1894	日清戦争

イサベル2世の誕生

- フェルナンド7世の4回目の結婚
- 1830年10月10日
- サリカ法典(男系男子優先)を廃止、
- → これなら弟ドン・カルロスが王に。
- 新しい規則(直系方式)の導入
- → 最初の子イサベル2世に。妹も生まれた。

フェルナンド7世の時代

1808-1833

- ナポレオン^oの侵略、独立戦争
- カディス憲法→立憲君主国へ向かう(1812)
- 自由主義派の出現と対立
- 自由主義経済へ→土地私有化
- ブルジョアの出現と農村社会の解体
- コレラ、飢饉の発生

カルリスタ戦争の背景

- ① 進歩派、自由主義派 vs 守旧派、封建派
 - スペインの産業革命
 - バスクに重工業、バルセロナに軽工業
 - 自由主義と反教会
 - 封建貴族はブルジョアに変身を望む

第2次カルリスタ戦争

1846-1849

- イサベル2世とカルロス6世との結婚話失敗
- 飢饉、共同地、農地の私有化、重税に反対
- 戦場→カタルニア、バスク、エストラマドゥラ
- 政府→常備軍化、
- ヨーロッパの革命(1848)フランス、ドイツ、イタリア、→共和派とカルリスタが手を組む。
- スペインの産業革命進む

イサベル2世の子供

- 1. イサベル・デ・ボルボン(1851-1931)
- 2. アルフォンソ(12世)(1857-1885)
- 3. マリア(1862-1946)
- 4. エウラリア(1864-1958)

- -----
- ☆イサベルの愛人 12人
 - ★セラーノ将軍
 - ★エスパルテロ将軍
 - ★ルイス・デ・アラーナ
 - ★プイグ・モルト
 - ★デ・カスティージャ

イサベル時代の社会経済

- スペインの鉄道(1848にバルセロナーマタロ)
- 鉄工業→バスク
- 織物工業→カタルーニア
- 法律制定
- 貨幣の制定
- 教育制度

ヨーロッパ産業主義の時代

- サン・シモン主義→スエズ運河、鉄道、都市計画、銀行
- オウエン主義・フーリエ主義→産業組織、
- 文明主義 ↔ 植民地主義(帝国主義)
- ダーウィン進化論→社会進化論

スペイン名誉革命1868

- 経済危機→財政危機、鉄道、銀行赤字
- 農業危機→不作。飢饉
- 工業危機→アメリカ南北戦争の影響で、
綿花輸入減少
- 政治的危機→イサベル2世の不人気(取り巻き政治)、
自由派の分裂。
- ⇒王政と共和主義のドッキング
- 反イサベルで国王捜し→立憲君主制
- 1869年憲法→普通選挙
- 1870 普仏戦争

第3次カルリスタ戦争

1872-1876

- 1870 議会でアマディオ1世を君主に選ぶ。
- 1872 カルロス7世、王位継承権を主張して反乱。
- ナバラに政府樹立→税制、郵便、大学。
- 戦場→バスク、ナバラ、カタルニア、バレンシア、アラゴン
- 1873 第一共和制宣言
 - 自治州主義派の反乱

第一共和制

1873.2-1874.12

- 第3次カルリスタ戦争
- キューバ独立10年戦争
- 1873年連邦憲法案(アメリカ憲法を参考に)

自治連合主義

- 連邦国家主義の台頭→アメリカ、ドイツ、イギリス、イタリア、スイス、ベルギー、メキシコ、アルゼンチン、インドなど
- スペイン→自治州主義が古い地方特権の歴史と連動した。労働運動の発展。

19世紀の文化芸術

- ロマン主義、歴史主義、自然主義、民族派
- 音楽→サルスエラ
- サラサーテ、アルベニス、グラナドス、ファリャ
- 文学→カルデロン、アラルコン、ベッケル

スペインのその後

- 1931年 第二共和制
- 1936-1939年 スペイン内戦
- 1975年 フランコ将軍死亡。フアン・カルロス即位。
- 1978年 新憲法

19世紀スペインと日本の比較

- 国民国家の形成→内戦が続いたスペイン、
- 議会制度の形成→出来なかったスペイン
- 産業ブルジョアの形成→外国資本に頼ったスペイン
- 地方主義の形成→連合国家を目指したスペイン
- 帝国主義の形成→植民地を失っていったスペイン